

事業番号	05 10 06	事業改善シート(27年度実施事業分)			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	献血普及啓発事業				担当課	部局	健康福祉部	
総合5か年計画	プロジェクト					課・室	薬事管理課	
	施策の総合的展開	6-1 健康で長生きできる地域づくり 6 医薬品等の確保・適正使用の推進				E-mail	yakuji@pref.nagano.lg.jp	
					実施期間	S40 ~		

1 事業の概要

目指す姿	長野県内で使用される輸血用血液製剤等の原料として必要な血液量を、県内の献血者血液により確保し、血液の安定供給を図る。 成果目標: 献血目標達成率を100%以上とする。		
現状(予算編成時)	<ul style="list-style-type: none"> 県内で必要となる血液は、概ね県内献血者による献血で確保できている。 献血目標は2年連続で達成できているが、若年層献血者数が減少傾向にある。 		
県が関与する理由	県でなければ実施不可(法令等義務)	【左記の説明、根拠法令等】 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」により、都道府県の実施事項と定められている。	
	県民との協働による実施: 検討中		

成果目標・事業内容	① 成果目標(H27)				
	平成27年度長野県献血推進計画において定める献血目標人数77,148人及び献血確保量30,4570を確保する。				
	② 事業内容 (単位:千円)				
	項目	実施方法	H27事業実績		
			H27(当初)	H27(決算)	
			H28(当初)		
1. 幅広い啓発の集中実施	直接	幅広く啓発を行うためにラジオによる啓発を実施 ・「愛の献血助け合い運動」「はたちの献血キャンペーン」に併せたラジオスポット広告(7月・1月) ・冬期献血啓発ラジオマンスリー放送(12~2月)	527	521	527
2. 体験・実践の機会の提供	直接	気軽に献血できるように献血場所を提供 ・献血ルーム体験運動(4会場×2~3日間、615人) ・定例献血スポットキャンペーン(5会場×3日間)	1,059	1,171	1,059
3. 若い世代への啓発の推進	直接	若い世代に献血していただけるよう啓発を実施 ・高校生啓発リーフレット配布(65,300部) ・新成人・大学生献血啓発パンフレット配布(24,100部) ・プロスポーツサポーターへの啓発(松本山雅会場2回・長野パルセイロ会場1回、172人) ・中・高校生からの献血推進啓発ポスターの募集 113点(中学 15校98点、高校 4校15点) ・啓発用ポケットティッシュ配布(30,000個) ・学生ボランティアキャンペーンの実施(夏2会場 100人、冬3会場 155人)	2,214	1,662	3,016
4. 関係団体との連携	直接	献血周知のため関係団体等と連携して啓発を実施 ・長野県献血推進協議会の開催 ・長野県献血推進員(40名)による啓発活動	558	525	553
		合計	4,358	3,879	5,155

事業コスト	区分(単位:千円)	25年度	26年度	27年度	28年度
	前年度繰越				
	当初予算	4,570	4,362	4,358	5,155
	補正予算				
	合計(A)	4,570	4,362	4,358	5,155
	一般財源	4,570	4,362	4,308	5,155
	県債				
	国庫支出金				
	その他	0	0	50	0
	決算額(B)	4,133	3,921	3,879	
概算職員数(人)	2.80	2.80	2.80	2.80	
概算人件費	23,122	23,122	23,173	23,173	
概算事業費(B(A)+C)	27,255	27,043	27,052	28,328	

成果目標の達成状況					
項目	H26末(実績)	H27			H28目標
		目標	成果	達成状況	
献血目標達成率	100%	100%	100.4%	達成	100%

目標に対する成果の状況	<ul style="list-style-type: none"> 献血者数については、血液センターが400ml献血を推奨しているため、400ml献血者が前年比103.2%と増加した。血液確保量も30,5640となり、前年比で101.3%、献血目標達成率も100.4%と目標を達成することができた。 県内の医療機関で必要とされる血液が不足するような事態が生じることなく、安定した需給状況であった。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	血液は長期に保存することができず、また人工的に製造することもできないため、常に献血により確保し続けていく必要がある。10~20代の若年層献血者数は他の年代に比べて少ないため、引き続き若年層への重点的な啓発が必要である。